有識者コメント

資料3

国土交通省

有識者コメント

事業者へのヒアリングについて

- ✓ とりまとめに向けては、データ連携における関係者の具体的な要望や懸念を把握することが重要であり、ヒアリングによってその要望・懸念をできる限り把握できると良い。
- ✓ 各地のMaaSの取組や公共交通を支える地方自治体の関係者にもヒアリングしたほうが良い。
- ✓ 現時点で想定される課題を洗い出すには、将来を見据えて想定される事業者側の要望や懸念を一つ一つ拾っていくことが重要となる。例えば、連携の範囲や将来の想定等のデータ連携に対する考え方や、遅延発生時の対応等の現場でのオペレーションの仕方は、交通モードや事業者によって異なると考えられる。この点、ヒアリングを通じて把握できると良い。
- ✓ 既にMaaSの登場当初に議論していた事業者を超えたデジタルフリーパスのプラットフォームやリアルタイムデータの利用者への提供等の様々サービスが実現しているように、本検討会の対象であるリアルタイムデータやチケッティングについても、ヒアリングを通じて、将来の交通社会を見据え、各社の要望や懸念を把握した上で丁寧に議論を行っていけると良い。

利用者アンケートについて

- ✓ 普段利用している交通手段や居住地域等によって課題やニーズが異なると想定されるため、利用者の属性情報を踏まえた分析が行えると良い。
- ✓ リアルタイムデータの有無で困った場面や役に立った場面等を自由記述で収集し、利用者の意見として把握できると良い。

とりまとめについて

- ✓ 交通事業者以外の第三者が整備し提供しているリアルタイムデータもある。利用者への情報提供に当たり、必要に応じて、第三者が提供するデータと連携することも選択肢の一つであるという観点を記載できると良い。
- ✓ 従来、シームレスに繋がっていなかった地点間の移動を、より促進するという方向性で全体の検討を進められると良い。特に、チケッティングについては、サービスの利用に要する時間を少なくできる等の利用者の利便性に注目して検討することが重要。
- ✓ リアルタイムデータの連携について、データの授受を行う共通の仕組みの構築に関わる検討を行う場合、連携する事業者の規模の大小に問わずデータ連携によるメリットを享受できるように留意して進めたほうが良い。
- ✓ 航空会社間の乗継時の連携やコードシェア等がリアルタイムデータ含めた高度なデータ共有をベースに実現していることを踏まえると、MaaSにおいて各事業者のサービスやオペレーションの連携を行うためにも、高度なデータの連携を行うことが有効と考えられる。MaaSレベル１（情報提供）、２（予約・決済）３（サービス・オペレーション連携）や４（社会課題開発、政策目標との連携）を意識して、産業的価値の向上や高度な社会インフラの実現に向けて、航空以外の他の交通モードも同様に、リアルタイムデータを活用したサービスの連携について中間とりまとめ等で検討できると良い